

## ■岡谷小学校保護者説明会

●日時 平成25年10月7日 午後7時～

場所 岡谷小学校南体育館

## ●説明内容

## 1. 岡谷小学校敷地の状況について

- (1) 校舎及び学校敷地の変状
- (2) 追加ボーリング調査の結果
- (3) 土砂災害防止法等に基づく区域指定

## 2. あり方検討委員会の検討経過報告について

## ●【保護者から出された主な質問・意見と市の回答】

○市は、岡谷小学校が必要だと思っているのか。

⇒歴史のある素晴らしい学校だと考えている。

⇒岡谷小学校が大切だからこそ、耐震改修を行うために様々な調査を行った。その中で、現地での存続は難しいという判断になった。子どもの安全を考えた時に、この場所は適さないということ。この点を理解頂けるか。

○誰も危険な所に学校を建てるとは、考えていない。

ここまできたら、市としての考えをストレートに言ったらどうか。綺麗事ではなく、だめならだめ、移転先も無いなら無い、建直しはしない、はっきり言ったらどうか。イライラするし、喧嘩腰にもなってしまう。

○あり方検討委員会の途中経過を保護者に説明してほしいと思っていた。今日配布されたような資料があるなら、各クラスの保護者に回覧するのも手だと思う。このように改めて同じ話を聞かなくても済む。今日は、移転先の結果を聞きに来た。時間の無駄だ。

⇒現実的には、岡谷小学区域に学校が建てられる敷地は無い。移転先としてどのような場所が考えられるかというようなことも、あり方検討委員会のなかで検討していくという方法をとっている。そのような中で、今この場で、あの場所は無いというような話をできる段階にはない。その点をご理解いただきたい。

○3月の説明会から何も変わっていない。今まで何をやっていたのか。

移転先を探すにあたって、どのような議論をしたかのかが分かる議事録を見せてほしい。特に検討していないのではないか。

⇒今までのあり方検討委員会の内容は、現地存続の観点だった。次回からは、移転先の検討をしていきたい。今この場で資料はない。

○移転先はどこがあるのか。

⇒建物が立っていない公共用地はどこかと言えば、例えば、駅南、イルフプラザ駐車場、

成田公園などがある。

○（上記の場所で）検討すればいい。

⇒土地の面積の問題もあるが、そこに学校を移転できるかどうかは、ただ単に、その場所に絵を描けばいいということではない。それぞれの土地で、使い勝手が決まっていたりもする。

○間下つつみ公園はどうか。今日は移転先の話を書き聞きたかった。

⇒公園も法的な縛りがある。他に移転先の候補地にあがっている所には、遊興施設が付近にあることもある。

○現校舎の撤去後に、地盤改良するのか。

⇒現時点では具体的に決まっていない。下の住民の安全を担保するためにどうするかということは、先ほどの校舎建築の対策工法とは別の方法が考えられる。（もっと安価で現実的な対処が。）

○地盤改良するなり、崩れないような対応をするのは、校舎を取壊した後に、別に考えるということか。

⇒そうだ。現時点では決まっていない。

○自分は岡谷小の直ぐ下に住んでいる。工事に入る前に地震が起きて崩れたら、市の対応が遅いと思ってしまう。不安だ。

⇒不安を抱かしていることはよくないこと。それを払拭するためにどうすればよいかを検討しなければいけない。今はこのようにお答えするしかない。実際にどういう時期に何をやるかということは、校舎をいつまでにどうするかということにもつながる。すぐにこうだとは答えられない。（岡谷小敷地が）直ぐにどうこうなるということはないと思っている。ただし、地震がいつ起きるか分からない状況にあるなかで、不安に思う気持ちは当然だと思う。それらをどのように解決していくは、市や県の役割があるので、しっかりやっていきたい。

○南校舎の利用方法についてももう一度聞きたい。

⇒どのように具体的に対処するかは決まっていない。単に、北校舎の空き教室に南校舎の教室を当てはめればいいのかというわけにはいかない。あり方検討委員会の中で、識者から少しでも安全な所へという意見があがった。お子さんには、南校舎がすぐにかなるといえるということはない、ということを書いてもらえたら。南校舎の耐震改修がまだ済んでいないということのこと。

○あり方検討委員会が全く進んでいない。3月から何も進展がない。今後、あり方検討委員会でも何を議論するのか。

⇒端的に言って、進んでいないというのが実情。当初は、現地が学校敷地として適さな

いため、ではどうするのかという次の議論からあり方検討委員会が進んでいただければと思っていた。ただ、委員の皆さんにいろいろな意見があるなかで、現地存続できないかという議論に集中していたと思う。今後は、子どもの教育のためにどうすればよいか、次の段階の話をしていきたい。次のあり方検討委員会では、次のステップに踏み込んでいきたいと思っている。次回のあり方検討委員会は、今月下旬の予定。

○あり方検討委員会で決定したことが、市の決定になるのか。

⇒あり方検討委員会で出された提言は、市として最大限に尊重する。ただし、最後に決めるのは市である。

○市が移転先は無いと言っているのに、あり方検討委員会で何を検討するのか。

⇒このような土地があるけれども、このような理由で無理だねというような話をあり方検討委員会でさせていただければと思う。

○子どもが6年生になるときに、平成28年度を迎える。6年生の修学旅行は、これまで一緒に過ごしてきた友達と行かせてあげたい。子どもが悲しむことはしないでほしい。

⇒その通りだと思う。ご意見を踏まえ、真剣に考えていきたい。

## ■市民説明会

●日時 平成25年10月8日 午後7時～

場所 テクノプラザおかや

### ●説明内容

#### 1. 岡谷小学校敷地の状況について

- (1) 校舎及び学校敷地の変状
- (2) 追加ボーリング調査の結果
- (3) 土砂災害防止法等に基づく区域指定

#### 2. あり方検討委員会の検討経過報告について

### ●【保護者から出された主な質問・意見と市の回答】

○1年間を通して、子どもが学校で過ごす時間はわずか17%でしかない。残りの83%の時間は学校以外で過ごしている。確率から言えば、学校にいてケガをするより、学校以外でケガをすることの方が多い。そのようなことを考えると、極端に警戒心を煽ることは正しくない。廃校という結論はいかがなものか。

⇒子どもの安全な教育環境を守るためには、どのくらいの時間学校に滞在しているからといった事とは、別の問題である。事実が分かったからには、対策をとらないといけない。

○岡谷区は土地が狭いうえ、ドーナツ化現象により衰退している。学校が無くなれば更にさらに衰退する。7年間かかっても、地域に学校を残してほしい。

⇒地域の活性化に必要なことは、学校があることだけではない。産業振興、医療福祉の充実、子育て支援等、様々なことが必要になる。

○どこにいても100%の安全はない。岡谷区としては、いくらお金をかけてでも現地存続を望んでいる。

⇒現地は特異な状況にある。子どもや保護者のために、事実は事実として話をしなければいけない。重い決断をした。

⇒何とかして現地に学校を残せないかという発想で、様々な検討を重ねた。しかし、検討した対策を施しても地盤の不安は拭えない。

⇒示した対策工法の実現性に疑問が残る。また、地中のことなので不確実さもある。

○岡谷小学校の敷地は何十年間も維持されている。自分は70年間この地形を見ている。(配布資料の変状写真を見て)素人目から見ても、こんなずさんな建築工事をやっていれば、当然変状は起きる。

⇒70年前の状況は分からない。あり方検討委員会では、昔はこうではなかったという話があった。現状の地質調査結果を十分に検討したうえで判断した。現在の地盤の状況を客観的に分析し、合理的な判断をした。

○どんな土地でも 100 年経てば土地は落ち着いてくる。縄文時代の遺跡が現在も残っていることが、土地が動いていない証拠。1,000 年前から土地は安定している。  
⇒今後もずっと安全が続く保障はない。今まで降ったことのないような雨が降ると、災害が起きる。危険な場所に建物を建てたり、負荷を与えてはいけない。

○これまでのあり方検討委員会は、現地が危険であるという方向に話をもっていくために追認を求めることが多かった。  
⇒追認を求めるものではない。最初に、なぜ現地がだめなのかを委員の皆さんに理解していただく必要があった。

○中校舎と北校舎を利用して、現地で学校を残してほしい。子どもに負担がかかる分散はやめてほしい。  
○市の説明の中で「ボタンの掛け違い」という言葉があったが、市と岡谷区民との間でボタンの掛け違いを感じる。これからはもっと丁寧な説明をお願いしたい。

○9月の新聞記事で、教育長が「岡谷小学校区内に移転先は無い」と言った記事があったと記憶している。移転先が無いのにあり方検討委員会でこれからどのように移転について検討するのか。  
⇒議会答弁の記事だと思う。現在の岡谷小学校の教育活動をそのまま継続できる場所が、岡谷小学校区内にはないということを付け加えている。

○市のやり方に全く誠意が見られない。岡谷区民 3,000 人の総意で公開質問状を提出したのに、あの程度の内容で 10 日も回答が延期され、市長以下大勢で持って来たかと思えば、すぐに帰って行った。誠意が無い。絶対に許せない。岡谷区と膝を突き合わせた説明会を市は行うべき。いつ行うかこの場で決めてほしい。  
⇒今月中に行きたい。

○地盤の変状が校舎の亀裂等に影響を与えている、ということであるが、単に校舎の建築工事がずさんだけではないか。素人が見ても分かる。  
⇒現状の地盤を客観的に把握することが一番重要である。建物の破損は、施工の不備や経年劣化の要素もあるが、写真で示した変状箇所は、普通の老朽化では説明できないものに限定した。これらは、施工の不備や普通の老朽化によるものではない。

○将来的な岡谷市の小中学校のあり方について、基本構想をこのようにするというのでなくていいので、市内全 21 区の代表者を交えたプロジェクトを作っていくというような具体的な検討方法を提示していただきたい。  
⇒現在、小中学校の基本構想はない。10 年、20 年先、少子化が進む中で統廃合の話は必ず出てくると思う。今後統廃合を検討しなければいけないという位置付けになっている。今回のことは、岡谷小学校が抱えた独自の大きな課題である。10 年、20 年先の統廃合の問題と絡めて話をする内容ではないと考えている。

○来年、岡谷小学校に子どもが入学をする。いつ最終的に決定するのか。  
⇒27年の5月までとしている。28年の4月から、なんらかの違う対応になる。

## ■市民説明会

●日時 平成 25 年 10 月 10 日 午後 7 時～

場所 岡谷市役所 9F 大会議室

### ●説明内容

#### 1. 岡谷小学校敷地の状況について

- (1) 校舎及び学校敷地の変状
- (2) 追加ボーリング調査の結果
- (3) 土砂災害防止法等に基づく区域指定

#### 2. あり方検討委員会の検討経過報告について

### ●【保護者から出された主な質問・意見と市の回答】

○子どもたちが安全安心で学校生活を送れることを願っている。

○子どもたちは地震により学校が壊れてしまうのではないかと、という不安な気持ちを常に持ちながら授業を受けていると思うと非常に切ない。

○早く子どもの安全安心を確保しないといけない。先生たちにも安心して教えられる環境を早く作ってあげて欲しい。

○自分も小学校 2 年生から 3 年生に上がる時に、自宅の近くにある線路に電車が沢山通るため、小学生がここを通ることは危険だということで、その町内の子ども達が一斉に他の学校に移ることになった。当時 7、8 歳の自分は、新しい学校へ行って友達ができるか等とても心配だったが、良くしたもので新しい学校でもあたたかく見守ってもらい、本当に楽しい学校生活を送ることができたことが、60 歳を過ぎた今でも心の中に残っており、良い経験をさせていただいたと思っている。

○これまであり方検討委員会が 4 回開催されたが、「現地存続は不可能だ」という意見が大勢を占めているのか、それともまだ「建て直せ」という意見が出ているのか。

⇒現地存続ができるかできないかの議論をしている。まだ様々な意見があり、統一的な意見は出ていない。次回の委員会からは、次のステップにいきたいと考えている。

○結論が遅い。こんなに危険が迫っているのに、何をやっているのか。

○いろいろな意見があると思うが、早く市が結論を出すべきだ。

○学校の中心は子どもたち。その子どもたちが悲しい思いをしている。大人が我慢をするべきだ。

○学校が遠くなるなら、1～3 年に対してはスクールバスで通うとか、もっと具体的な話をあり方検討委員会で話し合っていると思っていた。

○「2～3 年後どこの学校に行くの？」と子どもたちは、毎日毎日不安を感じて学校に通っている。一刻も早く結論を出すよう強く言いたい。

⇒そのような視点をもってしっかり対応していきたい。

- 現地存続のための対策工事を市はお金がかかるからやらないのか。
- 現地在が粗悪な土地ということは分かってきた。
- 市は3月の説明会で、移転・統合・分散と言いながら、移転先は無い、統合もうやむや、そうすると分散しかない。市としてはどうしたいのか。
- 説明会への参加者が少なく、市民全体としては興味が無い問題だということが分かった。
- ⇒何とか現地存続できないかということで検討してきた。費用的なことも行政としては重要な要素であるが、今回の判断はお金のことを考えずに検討した。しかし、技術的に安全が担保できず、周辺に対する環境的な面、工事期間、実現性等など様々なことを総合的に判断した。
- ⇒次回のあり方検討委員会では、次のステップを検討していきたい。